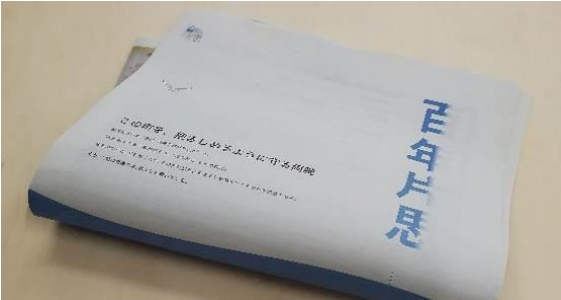


「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

団 体 名	テオプロジェクト -Theodorus Project-			
事 業 名	小樽の歴史文化普及事業「百年片思」 (防波堤が守ってくれている海の町の再発見)			
実 施 期 間	令和5年10月8日(日)から令和6年1月13日(土)			
事業の目的	埋もれた歴史を、アートの子カラで掘り起こす。 小樽の「水辺の資源」を再認識し、シビックプライドの醸成を狙いたい。背景として、伊藤整が出版した自伝的小説「若い詩人の肖像」で、防波堤を次のように喩えている。“北風に吹き送られる日本海の波が、組み合わせようとする両腕のように港を抱いている細く長い防波堤につき当たる”。この町を防波堤が抱きしめるかのようにして守ってくれている。という文学的描写をクローズアップする事で、小樽の海を含めた水辺の価値を再発掘したい。			
実 施 額	事業費	283,268円	助成額	223,418円
事業内容	A・歴史普及の部/1月11日(木)に完成して市内に配布(600部) 「百年片思」のパンフレットを作成し、市内施設に配架。 掲載内容は、①伊藤整が「抱きしめるように守る両腕」と喩えた事 ②北防波堤の魅力や技術の紹介などを盛り込んだ。 工夫した点として、小樽の歴史への関心が薄い人にも見てもらうため、出来るだけ難しい解説をせず、手に取りやすい紙面になるよう心掛けて作成した。タイトル「百年片思」の意図は、この町を抱きしめるように守っている防波堤の存在に対して、市民はそれほど関心を寄せているようには思えないことから、小樽と住民との間柄が片思いのようにも見える、という発想で名付けた。 原稿については小樽市総合博物館、市立小樽文学館、国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部などに確認を取りながら作成。完成したパンフレット(タブロイド型 600部)は、運河プラザやウイングベイ小樽、市内喫茶店や市場に配架した。  B・アート展開の部/11月15日(水)-1月13日(土) 「HuG 展(ハグ展)」と題し、ウイングベイ小樽 4階の廊下にて6つの作品を展示した。伊藤整は防波堤を見て「抱きしめる両腕」と喩えたが、現代のアーティストは防波堤をテーマに何を生み出すか。市内在住または小樽出身 			

者による美術作品を募集し、6点を展示。
アーティストがもっている独特の感性で「防波堤」「海」「小樽」の魅力創造に繋がった。効果として、約 5,900 人の目に触れたと想定する（通行人1日平均100名×59日（展示期間））。また、展示を見た人の反応として「小樽にこんな素晴らしい画家がいたんだ」「会場になっている海の見える廊下を始めて歩きました」「防波堤の歴史について興味が沸きました」という意見が届いた。



C・壁画プロジェクトの部/10月27日(金)に完成

「海、抱きしめる、包む」などをテーマに、ウイングベイ小樽4階の壁に巨大な壁画を制作。地元の子供15名（遊びから学ぶをビジョンに活動している SAFY というスクールに通う子供たち）と一緒に下地の絵を描いた。あくまでも下地のつもりだったが、子供たちの自由な表現や色彩をそのまま活かす方向性に計画を変更。後日、3人のアーティストによって、防波堤や、海から見たウイングベイ小樽の施設なども書き加え、壁画を完成させた。効果として、今までに延べ 8,000 人以上の通行人の目に触れたと想定。壁に直接書いているため、ずっと残る作品となる。



◎事業の日程について

10月8日（日）	15名の子供たちと一緒にウイングベイ小樽の壁に下絵を作成【C 企画】
10月27日（金）	地元画家による追加作業で壁画完成【C 企画】
11月15日（水）	HuG 展の開催【B 企画】 小樽出身や在住の若手アーティストに「防波堤」をテーマにした作品を作ってもらい、1月13日（土）まで廊下に展示した。
11月16日（木）	パンフレット作成のため、小樽開発建設部に写真素材の提供を依頼【A 企画】 以降、各機関に文章の確認をして頂いた。
12月20日（水）	パンフレットデータ入稿。年末年始のお休みに被り、到着は1月11日（木）になった。【A 企画】
1月13日（土）	運河プラザ喫茶、ウイングベイ小樽、市内飲食店や市場などに随時配架【A 企画】

◎事業評価について

1. 事業の目的の達成度

北防波堤は日本初の本格的なコンクリート製外洋防波堤であります。その事実を知る市民はそれほど多くない印象でした。小樽出身の作家である伊藤整の比喻をきっかけとし現代アーティストのチカラを借りて、3種類の企画によるアプローチによって、市民が小樽の防波堤に目を向ける機会が増えたと感じています。

課題として、前回同様になってしまいますが効果測定をするのが難しかった事が挙げられます。パンフレットにはQRコードで回答できるアンケートを掲載していましたが、作成が遅れたことにより回答期間が短く、報告書作成までに回答を得るのが困難でした。また、事業の審査会で地域の若者との連携について深めるようにとの指摘と、それを解決するためのアイデアを貰っていましたが、3つの企画を進めるので精一杯となってしまいました。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

ハグ展に関しては、昨年もウイングベイ小樽の廊下で作品展示を実施したことから直ぐに参加作家が集まり、それぞれがテーマを追求した作品作りに専念出来ました。また、多くのお客様が往来する施設にて作品が飾られる事で自身のPRにも繋がり、参加作家からは喜びの声が集まっています。

壁画制作にあたっては市内の子供たち15名に参加していただき、スポンジを使って壁に色を塗り、慣れてきたら絵を描いてもらいました。徐々に盛り上がっていくとスポンジを使わずに自分の手で直接壁に描いてくれて、手も体も靴もたくさん汚れましたが、とても貴重な体験だったと喜ぶ親の声や、子供たちからも「楽しかった!」という声が集まりました。壁画の完成イメージは事前に作成してありましたが、子供たちの自由な絵(下地)を見たアーティストたちの打合せにより、完成予定のイメージとは離れても良いから、子供たちの絵を活かすことに計画を変更し、完成に至った。絵に込めた意図や狙い、経緯などについては完成後に団体の代表者に連絡し、子供たちに伝えてもらうようにしました。

パンフレット製作については、防波堤をクローズアップした事、伊藤整の比喻を紹介した事について評価して下さる反応を頂き、小樽の歴史の面白さと伝えるきっかけになったと感じています。

3. 今後の事業について

アート活動を実施したことで、小樽商科大学などで主催するオアソビプロジェクトのブースで缶アートの製作依頼を受けたり、活動の幅が広がっています。今後も、小樽の歴史と文化をアートのチカラで掘り起こしていきたいと考えています。